

久留米市民生委員推薦会

令和7年10月23日

【目次】

	頁
久留米市民生委員推薦会名簿	1
民生委員・児童委員委嘱までの流れ	2
一斉改選スケジュール	3
民生委員法	4
民生委員法施行令	8
児童福祉法（抜粋）	9
久留米市民生委員推薦会規則	10
久留米市民生委員児童委員審査基準	12
久留米市主任児童委員審査基準	13
民生委員児童委員の定数基準	14
民生委員・児童委員推薦状況	16
地区別男女別推薦状況	17

◇久留米市民生委員推薦会委員名簿

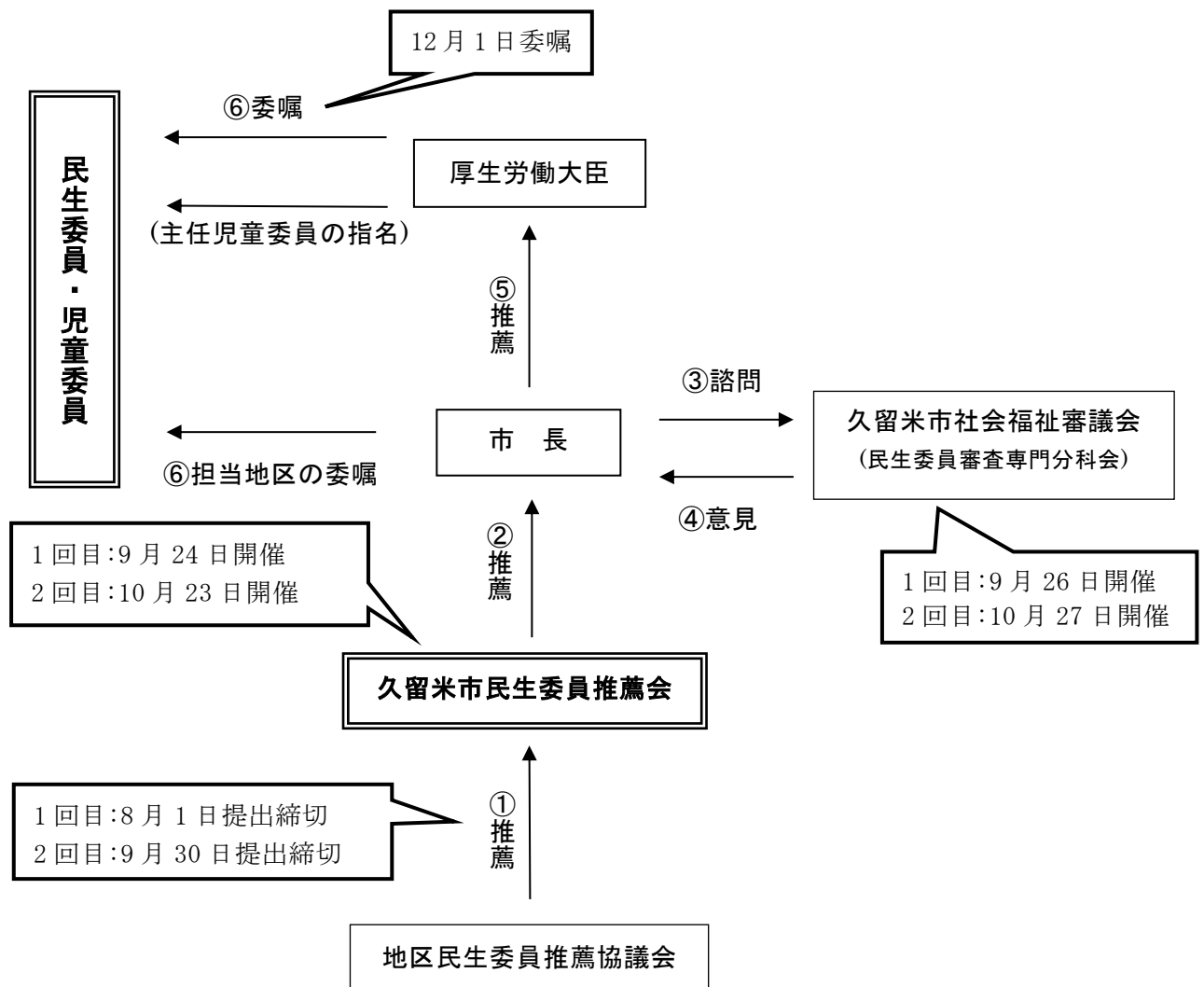
	要件(久留米市民生委員 推薦会規則第2条第2項)	氏 名	職 名	委嘱期間
1号委員	市町村の 議会の議員	秋永 峰子	久留米市議会議員	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
		小林 ときこ	久留米市議会議員	令和7年7月1日 ～令和8年8月31日
2号委員	民生委員	奥村 豊彦	久留米市民生委員児童委員協議会副会長 (篠山地区民生委員児童委員協議会会長)	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
		高田 カヨ子	久留米市民生委員児童委員協議会児童家庭部会部長 (荒木地区民生委員児童委員協議会会長)	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
3号委員	社会福祉事業の 実施に関係ある者	高田 裕矢	久留米市介護福祉サービス事業者協議会副理事長	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
		尾花 清美	一般社団法人 久留米市保育協会副理事長 (西久留米保育園園長)	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
4号委員	社会福祉関係 団体の代表者	行徳 淳子	久留米市子ども会連合会副会長	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
		大内田 千代	久留米市社会福祉協議会総務課長	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
5号委員	教育に関係ある者	田中 幹雄	久留米市校区まちづくり連絡協議会副会長 (南薫校区まちづくり振興会会長)	令和6年5月28日 ～令和8年8月31日
		園木 聖子	久留米市立田主丸小学校校長	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
6号委員	関係行政機関 の職員	三浦 圭史	久留米市健康福祉部保健所地域保健課長	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
		野口 晶子	久留米市子ども未来部家庭子ども相談課 児童相談担当主幹	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
7号委員	学識経験のある者	山村 靖彦	久留米大学文学部社会福祉学科教授	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日
		中村 秀一	九州大谷短期大学幼児教育学科教授	令和5年9月1日 ～令和8年8月31日

民生委員・児童委員委嘱までの流れについて

民生委員・児童委員の任期は、民生委員法第10条で「3年」と定められており、令和4年12月1日に始まった現在の任期は令和7年11月30日に満了となります。

今回、委嘱される方の任期は、令和7年12月1日の委嘱後、令和10年11月30日までとなります。

民生委員・児童委員の委嘱手続き



○ 一斉改選スケジュール

5月26日 5月27日 5月30日	一斉改選事務説明会（市→各地区推薦協議会）
↓	民生委員・児童委員候補者選定
8月1日	民生委員・児童委員推薦調書提出期限（各地区推薦協議会→市）
9月24日	久留米市民生委員推薦会開催
9月26日	久留米市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会開催
9月 末	厚生労働省への民生委員候補者推薦
9月30日	民生委員・児童委員推薦調書 追加推薦 提出期限 （各地区推薦協議会→市）
10月23日	久留米市民生委員推薦会開催（追加推薦）
10月27日	久留米市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会開催（追加推薦）
10月 末	厚生労働省への民生委員候補者推薦（追加推薦）
12月1日	民生委員・児童委員就任退任式

民生委員法

第一条 民生委員は、社会奉仕の精神をもつて、常に住民の立場に立つて相談に応じ、及び必要な援助を行い、もつて社会福祉の増進に努めるものとする。

第二条 民生委員は、常に、人格識見の向上と、その職務を行う上に必要な知識及び技術の修得に努めなければならない。

第三条 民生委員は、市（特別区を含む。以下同じ。）町村の区域にこれを置く。

第四条 民生委員の定数は、厚生労働大臣の定める基準を参酌して、前条の区域ごとに、都道府県の条例で定める。

2 前項の規定により条例を制定する場合には、都道府県知事は、あらかじめ、前条の区域を管轄する市町村長（特別区の区長を含む。以下同じ。）の意見を聴くものとする。

第五条 民生委員は、都道府県知事の推薦によつて、厚生労働大臣がこれを委嘱する。

2 都道府県知事は、前項の推薦を行うに当たつては、市町村に設置された民生委員推薦会が推薦した者について行うものとする。この場合において、都道府県に設置された社会福祉法（昭和二十六年法律第四十五号）第七条第一項に規定する地方社会福祉審議会（以下「地方社会福祉審議会」という。）の意見を聴くよう努めるものとする。

第六条 民生委員推薦会が、民生委員を推薦するに当つては、当該市町村の議会（特別区の議会を含む。以下同じ。）の議員の選挙権を有する者のうち、人格識見高く、広く社会の実情に通じ、且つ、社会福祉の増進に熱意のある者であつて児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号）の児童委員としても、適当である者について、これを行わなければならない。

2 都道府県知事及び民生委員推薦会は、民生委員の推薦を行うに当たつては、当該推薦に係る者のうちから児童福祉法の主任児童委員として指名されるべき者を明示しなければならない。

第七条 都道府県知事は、民生委員推薦会の推薦した者が、民生委員として適当でないと認めるときは、地方社会福祉審議会の意見を聴いて、その民生委員推薦会に対し、民生委員の再推薦を命ずることができる。

2 前項の規定により都道府県知事が再推薦を命じた場合において、その日から二十日以内に民生委員推薦会が再推薦をしないときは、都道府県知事は、当該市町村長及び地方社会福祉審議会の意見を聴いて、民生委員として適当と認める者を定め、これを厚生労働大臣に推薦することができる。

第八条 民生委員推薦会は、委員若干人でこれを組織する。

2 委員は、当該市町村の区域の実情に通ずる者のうちから、市町村長が委嘱する。

3 民生委員推薦会に委員長一人を置く。委員長は、委員の互選とする。

4 前三項に定めるもののほか、委員長及び委員の任期並びに委員長の職務その他民生委員推薦会に関し必要な事項は、政令でこれを定める。

第九条 削除

第十条 民生委員には、給与を支給しないものとし、その任期は、三年とする。ただし、補欠の民生委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第十一条 民生委員が左の各号の一に該当する場合には、厚生労働大臣は、前条の規定にかかわらず、都道府県知事の具申に基いて、これを解嘱することができる。

- 一 職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
- 二 職務を怠り、又は職務上の義務に違反した場合
- 三 民生委員たるにふさわしくない非行のあつた場合

2 都道府県知事が前項の具申をするに当たっては、地方社会福祉審議会の同意を経なければならない。

第十二条 前条第二項の場合において、地方社会福祉審議会は、審査をなすに際して、あらかじめ本人に対してその旨を通告しなければならない。

2 前項の通告を受けた民生委員は、通告を受けた日から二週間以内に、地方社会福祉審議会に対して意見を述べることができる。

3 前項の規定により民生委員が意見を述べた場合には、地方社会福祉審議会は、その意見を聴いた後でなければ審査をなすことができない。

第十三条 民生委員は、その市町村の区域内において、担当の区域又は事項を定めて、その職務を行うものとする。

第十四条 民生委員の職務は、次のとおりとする。

- 一 住民の生活状態を必要に応じ適切に把握しておくこと。
- 二 援助を必要とする者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように生活に関する相談に応じ、助言その他の援助を行うこと。
- 三 援助を必要とする者が福祉サービスを適切に利用するために必要な情報の提供その他の援助を行うこと。
- 四 社会福祉を目的とする事業を経営する者又は社会福祉に関する活動を行う者と密接に連携し、その事業又は活動を支援すること。
- 五 社会福祉法に定める福祉に関する事務所（以下「福祉事務所」という。）その他の関係行政機関の業務に協力すること。

2 民生委員は、前項の職務を行うほか、必要に応じて、住民の福祉の増進を図るための活動を行う。

第十五条 民生委員は、その職務を遂行するに当つては、個人の人格を尊重し、その身上に関

する秘密を守り、人種、信条、性別、社会的身分又は門地によつて、差別的又は優先的な取扱をすることなく、且つ、その処理は、実情に即して合理的にこれを行わなければならない。

第十六条 民生委員は、その職務上の地位を政党又は政治的目的のために利用してはならない。

2 前項の規定に違反した民生委員は、第十一条及び第十二条の規定に従い解嘱せられるものとする。

第十七条 民生委員は、その職務に関して、都道府県知事の指揮監督を受ける。

2 市町村長は、民生委員に対し、援助を必要とする者に関する必要な資料の作成を依頼し、その他民生委員の職務に関して必要な指導をすることができる。

第十八条 都道府県知事は、民生委員の指導訓練を実施しなければならない。

第十九条 削除

第二十条 民生委員は、都道府県知事が市町村長の意見をきいて定める区域ごとに、民生委員協議会を組織しなければならない。

2 前項の規定による民生委員協議会を組織する区域を定める場合においては、特別の事情のあるときの外、市においてはその区域を数区域に分けた区域をもつて、町村においてはその区域をもつて一区域としなければならない。

第二十一条から第二十三条まで 削除

第二十四条 民生委員協議会の任務は、次のとおりとする。

- 一 民生委員が担当する区域又は事項を定めること。
- 二 民生委員の職務に関する連絡及び調整をすること。
- 三 民生委員の職務に関して福祉事務所その他の関係行政機関との連絡に当たること。
- 四 必要な資料及び情報を集めること。
- 五 民生委員をして、その職務に関して必要な知識及び技術の修得をさせること。
- 六 その他民生委員が職務を遂行するに必要な事項を処理すること。

2 民生委員協議会は、民生委員の職務に関して必要と認める意見を関係各庁に具申することができる。

3 民生委員協議会は、市町村の区域を単位とする社会福祉関係団体の組織に加わることができる。

4 市町村長及び福祉事務所その他の関係行政機関の職員は、民生委員協議会に出席し、意見を述べることができる。

第二十五条 民生委員協議会を組織する民生委員は、その互選により会長一人を定めなければならない。

2 会長は、民生委員協議会の会務をとりまとめ、民生委員協議会を代表する。

3 前二項に定めるもののほか、会長の任期その他会長に関し必要な事項は、政令で定める。

第二十六条 民生委員、民生委員推薦会、民生委員協議会及び民生委員の指導訓練に関する費用は、都道府県がこれを負担する。

第二十七条 削除

第二十八条 国庫は、第二十六条の規定により都道府県が負担した費用のうち、厚生労働大臣の定める事項に関するものについては、予算の範囲内で、その一部を補助することができる。

第二十九条 この法律中都道府県が処理することとされている事務で政令で定めるものは、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百五十二条の十九第一項の指定都市（以下本条中「指定都市」という。）及び同法第二百五十二条の二十二第一項の中核市（以下本条中「中核市」という。）においては、政令で定めるところにより、指定都市又は中核市（以下本条中「指定都市等」という。）が処理するものとする。この場合においては、この法律中都道府県に関する規定は、指定都市等に関する規定として指定都市等に適用があるものとする。

第二十九条の二 この法律に規定する厚生労働大臣の権限は、厚生労働省令で定めるところにより、地方厚生局長に委任することができる。

2 前項の規定により地方厚生局長に委任された権限は、厚生労働省令で定めるところにより、地方厚生支局長に委任することができる

民生委員法施行令

第一条 民生委員推薦会の委員長の任期は、民生委員推薦会においてこれを定める。

2 民生委員推薦会の委員の任期は、三年とする。但し、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員が左の各号の一に該当する場合においては、任期中であっても、市町村長（特別区の区長を含む。以下同じ。）は、これを解嘱することができる。

一 職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合

二 委員たるにふさわしくない非行のあつた場合

4 委員がその職務上の地位を政党又は政治的目的のために利用した場合は、前項の規定に従い解嘱せられるものとする。

第二条 民生委員推薦会の委員長は、会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめ民生委員推薦会の指定する委員が、その職務を代理する。

第三条 民生委員推薦会の委員長は、民生委員推薦会を招集し、その議長となる。

第四条 民生委員推薦会は、委員の半数以上が出席しなければ、議事を開くことができない。

第五条 民生委員推薦会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否が同数であるときは、議長がこれを決する。

第六条 民生委員推薦会に幹事及び書記を置き、市町村長がこれを命じ、又は委嘱する。

2 幹事は、委員長の命を受けて庶務を整理し、書記は、委員長及び幹事の指揮を受けて庶務に従事する。

第七条 前各条で定めるものの外、民生委員推薦会の委員の定数その他民生委員推薦会に関し必要な事項は、市町村長がこれを定める。

第八条から第十条まで 削除

第十一条 民生委員協議会の会長の任期は、一年とする。

2 会長に事故があるときは、民生委員協議会を組織する民生委員があらかじめ互選により定める者が、その職務を代理する。

第十二条 地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百五十二条の十九第一項の指定都市（以下「指定都市」という。）において、民生委員法第二十九条の規定により、指定都市が処理する事務については、地方自治法施行令（昭和二十二年政令第十六号）第七百七十四条の二十七に定めるところによる。

2 地方自治法第二百五十二条の二十二第一項の中核市（以下「中核市」という。）において、民生委員法第二十九条の規定により、中核市が処理する事務については、地方自治法施行令第七百七十四条の四十九の三に定めるところによる。

第十三条から第十六条まで 削除

第十七条 この政令は、公布の日から、これを施行し、民生委員法施行の日（昭和二十三年七月二十九日）から、これを適用する。

児童福祉法（抜粋）

（児童委員）

第十六条 市町村の区域に児童委員を置く。

- ② 民生委員法(昭和二十三年法律第九十八号)による民生委員は、児童委員に充てられたものとする。
- ③ 厚生労働大臣は、児童委員のうちから、主任児童委員を指名する。
- ④ 前項の規定による厚生労働大臣の指名は、民生委員法第五条の規定による推薦によつて行う。

（児童委員の職務）

第十七条 児童委員は、次に掲げる職務を行う。

- 一 児童及び妊産婦につき、その生活及び取り巻く環境の状況を適切に把握しておくこと。
 - 二 児童及び妊産婦につき、その保護、保健その他福祉に関し、サービスを適切に利用するために必要な情報の提供その他の援助及び指導を行うこと。
 - 三 児童及び妊産婦に係る社会福祉を目的とする事業を経営する者又は児童の健やかな育成に関する活動を行う者と密接に連携し、その事業又は活動を支援すること。
 - 四 児童福祉司又は福祉事務所の社会福祉主事の行う職務に協力すること。
 - 五 児童の健やかな育成に関する気運の醸成に努めること。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、必要に応じて、児童及び妊産婦の福祉の増進を図るための活動を行うこと。
- ② 主任児童委員は、前項各号に掲げる児童委員の職務について、児童の福祉に関する機関と児童委員(主任児童委員である者を除く。以下この項において同じ。)との連絡調整を行うとともに、児童委員の活動に対する援助及び協力を行う。
 - ③ 前項の規定は、主任児童委員が第一項各号に掲げる児童委員の職務を行うことを妨げるものではない。
 - ④ 児童委員は、その職務に関し、都道府県知事の指揮監督を受ける。

（市町村長と児童委員との関係）

第十八条 市町村長は、前条第一項又は第二項に規定する事項に関し、児童委員に必要な状況の通報及び資料の提供を求め、並びに必要な指示をすることができる。

- ② 児童委員は、その担当区域内における児童又は妊産婦に関し、必要な事項につき、その担当区域を管轄する児童相談所長又は市町村長にその状況を通知し、併せて意見を述べなければならない。
- ③ 児童委員が、児童相談所長に前項の通知をするときは、緊急の必要があると認める場合を除き、市町村長を経由するものとする。
- ④ 児童相談所長は、その管轄区域内の児童委員に必要な調査を委嘱することができる。

（研修）

第十八条の二 都道府県知事は、児童委員の研修を実施しなければならない。

（命令への委任）

第十八条の三 この法律で定めるもののほか、児童委員に関し必要な事項は、命令でこれを定める。

久留米市民生委員推薦会規則

(目的及び設置)

第1条 久留米市は、民生委員法施行令(昭和23年政令第226号)第7条の規定により、民生委員候補者の選考及び推薦を行うため、久留米市民生委員推薦会(以下「推薦会」という。)を置く。

(組織)

第2条 推薦会は、委員14人をもって組織する。

2 推薦会の委員は、次の各号に掲げる者のうちから、それぞれ2人以内を市長が委嘱する。

- (1) 市議会議員
- (2) 民生委員
- (3) 社会福祉事業の実施に関係のある者
- (4) 市の区域を単位とする社会福祉関係団体の代表者
- (5) 教育に関係のある者
- (6) 関係行政機関の職員
- (7) 学識経験のある者

(委員の任期)

第3条 委員の任期は3年とする。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(欠格事項)

第4条 市長は、委員が次の各号のいずれかに該当する場合は、任期中であっても解職することができる。

- (1) 第2条第2項各号のいずれかに該当しなくなった場合
- (2) 職務遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
- (3) 委員としてふさわしくない非行のあった場合
- (4) 委員がその職務上の地位を政党又は政治的目的のために利用した場合

(委員長及び委員長職務代理)

第5条 推薦会に委員長1人を置く。

2 委員長は委員の互選とする。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。

第6条 委員長は推薦会を代表し、推薦会の会務を総理する。

2 委員長は必要に応じ推薦会を招集し、会議の議長となる。

(会議の運営)

第7条 推薦会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

第8条 推薦会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(幹事及び書記)

第9条 推薦会に幹事3人及び書記2人を置き、市長が任命し、又は委嘱する。

- 2 幹事は、委員長の命を受けて会務を処理する。
- 3 書記は、委員長及び幹事の指揮を受けて庶務に従事する。

(協議会)

第 10 条 推薦会の円滑な運営を図るため委員長が別に定める区域ごとに民生委員推薦協議会(以下「協議会」という。)を設け、民生委員候補者を選出させることができる。

- 2 協議会の委員は、第 2 条第 2 項の規定に準じ委員長が委嘱し、その任期は 3 年とする。
- 3 協議会に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

(その他)

第 11 条 この規則に定めるもののほか、推薦会に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、公布の日から施行し、昭和 28 年 10 月 1 日から適用する。
- 2 久留米市民生委員推薦会規則(昭和 23 年久留米市規則第 2 号)は、廃止する。

(協議会の委員の任期の特例)

- 3 平成 22 年 9 月 1 日から平成 24 年 8 月 31 日までの間は、第 10 条第 2 項中「3 年」とあるのは「2 年」とする。

久留米市民生委員・児童委員 審査基準

- 1 民生委員・児童委員の推薦にあたっては、個人の人格を尊重し、人種、信条、性別、社会的門地によって、差別的な取扱いをすることなく職務を行うことができ、個人の生活上、精神上、肉体上の秘密を固く守ることができる者を選任すること。
- 2 次の各号に掲げる要件を備えている者を選任すること。なお、審査にあたっては、一般的な地域住民を基準とする。
 - (1) 社会奉仕の精神に富み、人格識見ともに高く、生活経験が豊富で、常識があり、社会福祉の活動に理解と熱意がある者。
 - (2) その地域に居住しており、その地域の実情をよく知っているだけでなく、地域の住民が気軽に相談に行けるような者
 - (3) 生活が安定しており、健康であって、民生委員・児童委員活動に必要な時間を得られる者
 - (4) 児童及び妊産婦の保護、保険その他福祉の仕事に関心をもち、児童の心理を理解し、児童に接触して指導することができ、また児童から親しみをもたれる者。
- 3 多くの役職を兼務し、民生委員・児童委員としての職務を遂行するうえで支障があると予測される者は、選任しないよう留意すること。
- 4 再任する場合には、民生委員・児童委員としての、これまでの活動実績も十分勘案すること。
- 5 将来にわたって積極的な活動を行えるよう、75歳未満の者を選任するよう努めること。なお、地域の実情を踏まえた弾力的な運用が可能なものであるので留意すること。
- 6 民生委員・児童委員の男女比は、極端に偏ることのないよう留意すること。
- 7 貸金業を職業とする者については、生活福祉資金の貸付に係る相談業務等、民生委員の職務が金銭に関係する分野もあることから、選任にあたっては特に留意すること。
- 8 常勤の公務員、会社員等を選任するにあたっては、任命権者又は雇用主の承諾が得られ、民生委員・児童委員活動に支障のない者であること。なお、常勤とは、雇用の形態に関わらず、任命権者又は雇用主が定める所定労働時間を勤務する就業形態をいう。
- 9 国会議員及び県議会議員、市議会議員を民生委員・児童委員として選任することについては、民生委員法第16条の趣旨に照らした結果、適当でないこと。
- 10 推薦会には、必要に応じ地区民生委員推薦協議会の委員長等の出席を求め、選任事情の説明を求めることがあること。

久留米市主任児童委員審査基準

- 1 主任児童委員の推薦にあたっては、個人の人格を尊重し、人種、信条、性別、社会的門地によって、差別的な取扱いをすることなく職務を行うことができ、個人の生活上、精神上、肉体上の秘密を固く守ることができる者を選任すること。
- 2 次の各号に掲げる要件のほか、児童福祉に関する理解と熱意を有し、専門的な知識と経験を持ち、地域における児童健全育成活動の中心となり、積極的な活動が期待できる者を選任すること。
なお、審査にあたっては、一般的な地域住民を基準とする。
 - (1) 社会奉仕の精神に富み、人格識見ともに高く、生活経験が豊富で、常識があり、社会福祉の活動に理解と熱意がある者。
 - (2) その地域に居住しており、その地域の実情をよく知っているだけでなく、地域の住民が気軽に相談に行けるような者
 - (3) 生活が安定しており、健康であって、民生委員・児童委員活動に必要な時間を得られる者
 - (4) 児童及び妊産婦の保護、保険その他福祉の仕事に関心をもち、児童の心理を理解し、児童に接触して指導することができ、また児童から親しみをもたれる者。
- 3 多くの役職を兼務し、主任児童委員としての職務を遂行するうえで支障があると予測される者は、選任しないよう留意すること。
- 4 再任する場合には、主任児童委員としての、これまでの活動実績も十分勘案すること。
- 5 原則として65歳未満の者を選任するよう努めること。なお、地域の実情を踏まえた弾力的な運用が可能なものであるので留意すること。
- 6 女性の積極的な登用に努め、民生委員児童委員協議会における主任児童委員の定数の半数は女性となるよう努めること。
- 7 常勤の公務員、会社員等を選任するにあたっては、任命権者又は雇用主の承諾が得られ、主任児童委員活動に支障のない者であること。なお、常勤とは、雇用の形態に関わらず、任命権者又は雇用主が定める所定労働時間を勤務する就業形態をいう。
- 8 国会議員及び県議会議員、市議会議員を主任児童委員として選任することについては、民生委員法第16条の趣旨に照らした結果、適当でないこと。
- 9 推薦会には、必要に応じ地区民生委員推薦協議会の委員長等の出席を求め、選任事情の説明を求めることがあること。

都道府県知事

各 指定都市市長 殿

中核市市長

厚生労働省雇用均等・児童家庭局長

厚生労働省社会・援護局長

民生委員・児童委員の定数基準について

今般、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」(平成 25 年法律第 44 号)により、民生委員法(昭和 23 年法律第 198 号)第 4 条に基づく定数基準が「従うべき基準」から「参酌基準」に改正され、今後、都道府県、指定都市、中核市(以下「都道府県等」という。)は条例でこの基準を定めることとされた。

ついては、民生委員法第 4 条の厚生労働大臣の定める基準を下記のとおり定め、平成 26 年 4 月 1 日から適用することとされたので、この基準を参酌して、同 3 条の区域ごとに、都道府県等で条例を定められたい。

おって、「民生委員・児童委員の定数基準について」(平成 13 年 6 月 29 日雇児発第 433 号、社援発第 1145 号本職通知)は、平成 26 年 3 月 31 日をもって廃止する。

なお、都道府県等の条例が制定施行されるまでの間は、なお従前の例による。

記

民生委員法第 4 条の規定に基づき条例で定める民生委員・児童委員(主任児童委員は除く。)の定数は次の 1 の基準を参酌して定めること。この際、都道府県知事は各市区町村長の意見を聞いて市区町村ごとに定めるものとする。なお、主任児童委員の定数については、2 を踏まえて適切に算出するものとする。

定数の設定に当たっては、市区町村ごとの管内人口や面積、地理的条件、世帯構成の類型等を総合的に勘案し、住民に対するサービスが適切に行われるよう地域の実情を踏まえた弾力的な定数の設定について留意すること。

(民生委員法第 4 条第 1 項の規定により都道府県等が条例を定めるに当たって参酌すべき基準)

1 「区域又は事項を担当する民生委員・児童委員配置基準表」

区 分	配 置 基 準
1 東京都区部及び指定都市	220 から 440 までの間のいずれかの数の世帯ごとに民生委員・児童委員 1 人
2 中核市及び人口 10 万人以上の市	170 から 360 までの間のいずれかの数の世帯ごとに民生委員・児童委員 1 人
3 人口 10 万人未満の市	120 から 280 までの間のいずれかの数の世帯ごとに民生委員・児童委員 1 人
4 町 村	70 から 200 までの間のいずれかの数の世帯ごとに民生委員・児童委員 1 人

(注)1 本表による市区町村の人口は、地方自治法第 254 条に規定する人口とする。

2 市区町村の廃置分合又は協会変更、若しくは所属未定地等の編入があった場合の本表による市区町村の人口は、地方自治法施行

令第 176 条及び第 177 条に規定する人口とする。

(主任児童委員の活動内容を勘案して示す基準)

2 「主任児童委員配置基準表」

民生委員法第 20 条の規定に基づき組織された民生委員協議会の規模に応じて次表により算出された数とすること。但し、民生委員協議会の規模に主任児童委員の定数は含めないものとする。

民生委員協議会の規模	主任児童委員の定数
民生委員・児童委員の定数 39 人以下	2 人
民生委員・児童委員の定数 40 人以上	3 人

(注)「参酌すべき基準」とは、地方自治体が十分参酌した結果としてであれば、地域の実情に応じて、異なる内容を定めることが許容されるものである。(地方分権改革推進計画(平成 21 年 12 月 15 日閣議決定))

◇民生委員・児童委員、主任児童委員推薦状況

○ 新任・再任状況

	定数	R7.8月時点総数		定数	R7.12月時点予定総数			欠員
		現委員数	欠員		新任	再任	推薦者数	
民生委員・児童委員	491	476	15	491	154	313	467	24
主任児童委員	89	88	1	89	19	65	84	5
計	580	564	16	580	173	378	551	29
(充足率)	-	97.2%	-	-	-	-	95.0%	-

【欠員内訳】

民生委員・児童委員：西国分地区(3名)篠山地区(1名)京町地区(1名)南薫地区(4名)鳥飼地区(2名)
 金丸地区(1名)東国分(3名)御井地区(1名)南地区(1名)合川地区(2名)
 宮ノ陣地区(1名)大善寺地区(1名)善導寺地区(1名)田主丸地区(1名)三瀧地区(1名)

計 24名

主任児童委員 西国分地区(1名)鳥飼地区(1名)南地区(1名)荒木地区(1名)青峰地区(1名)

計 5名

合計 29名

○ 男女別状況

	定数	R7.8月時点						R7.12月時点					
		男		女		計		男		女		計	
		委嘱者	構成比	委嘱者	構成比	委嘱者	構成比	委嘱者	構成比	委嘱者	構成比	委嘱者	構成比
民生委員・児童委員	491	188	39.5%	288	60.5%	476	100%	198	42.4%	269	57.6%	467	100%
主任児童委員	89	9	10.2%	79	89.8%	88	100%	10	11.9%	74	88.1%	84	100%
計	580	197	34.9%	367	65.1%	564	100%	208	37.7%	343	62.3%	551	100%

◇民生委員・児童委員推薦状況（令和7年12月1日予定）

No.	地区名	民生委員					主任児童委員					合計				
		定数	男	女	計	欠員	定数	男	女	計	欠員	定数	男	女	計	欠員
1	西国分	22	6	13	19	3	3	0	2	2	1	25	6	15	21	4
2	荘島	8	2	6	8	0	2	0	2	2	0	10	2	8	10	0
3	日吉	12	3	9	12	0	2	0	2	2	0	14	3	11	14	0
4	篠山	11	6	4	10	1	2	0	2	2	0	13	6	6	12	1
5	京町	12	3	8	11	1	2	0	2	2	0	14	3	10	13	1
6	南薫	19	4	11	15	4	2	0	2	2	0	21	4	13	17	4
7	鳥飼	15	3	10	13	2	2	0	1	1	1	17	3	11	14	3
8	長門石	11	3	8	11	0	2	0	2	2	0	13	3	10	13	0
9	小森野	6	4	2	6	0	2	0	2	2	0	8	4	4	8	0
10	金丸	21	8	12	20	1	2	0	2	2	0	23	8	14	22	1
11	東国分	26	7	16	23	3	2	0	2	2	0	28	7	18	25	3
12	御井	15	5	9	14	1	2	0	2	2	0	17	5	11	16	1
13	南	25	10	14	24	1	3	0	2	2	1	28	10	16	26	2
14	合川	19	8	9	17	2	3	0	3	3	0	22	8	12	20	2
15	山川	10	0	10	10	0	2	0	2	2	0	12	0	12	12	0
16	上津	21	14	7	21	0	3	0	3	3	0	24	14	10	24	0
17	高良内	13	6	7	13	0	2	0	2	2	0	15	6	9	15	0
18	宮ノ陣	13	3	9	12	1	2	0	2	2	0	15	3	11	14	1
19	山本	6	1	5	6	0	2	0	2	2	0	8	1	7	8	0
20	草野	4	2	2	4	0	2	0	2	2	0	6	2	4	6	0
21	安武	10	3	7	10	0	2	0	2	2	0	12	3	9	12	0
22	荒木	17	7	10	17	0	2	0	1	1	1	19	7	11	18	1
23	大善寺	12	6	5	11	1	2	0	2	2	0	14	6	7	13	1
24	善導寺	10	5	4	9	1	2	1	1	2	0	12	6	5	11	1
25	大橋	4	3	1	4	0	2	0	2	2	0	6	3	3	6	0
26	青峰	9	4	5	9	0	2	0	1	1	1	11	4	6	10	1
27	津福	18	9	9	18	0	2	0	2	2	0	20	9	11	20	0
28	船越	3	3	0	3	0	2	1	1	2	0	5	4	1	5	0
29	水分	3	2	1	3	0	2	2	0	2	0	5	4	1	5	0
30	水縄	4	3	1	4	0	2	1	1	2	0	6	4	2	6	0
31	田主丸	12	7	4	11	1	2	1	1	2	0	14	8	5	13	1
32	柴刈	4	3	1	4	0	2	1	1	2	0	6	4	2	6	0
33	川会	4	1	3	4	0	2	1	1	2	0	6	2	4	6	0
34	竹野	5	1	4	5	0	2	0	2	2	0	7	1	6	7	0
35	北野	13	7	6	13	0	2	0	2	2	0	15	7	8	15	0
36	弓削	6	3	3	6	0	2	0	2	2	0	8	3	5	8	0
37	大城	9	6	3	9	0	2	0	2	2	0	11	6	5	11	0
38	金島	5	4	1	5	0	2	0	2	2	0	7	4	3	7	0
39	城島	26	13	13	26	0	3	2	1	3	0	29	15	14	29	0
40	犬塚	12	4	8	12	0	2	0	2	2	0	14	4	10	14	0
41	三瀧	10	4	5	9	1	2	0	2	2	0	12	4	7	11	1
42	西牟田	6	2	4	6	0	2	0	2	2	0	8	2	6	8	0
合計		491	198	269	467	24	89	10	74	84	5	580	208	343	551	29